

鏡野町の奇岩・巨岩③

今回は富地域を紹介します。奇岩・巨岩の話は今回が最後になります。

①こうぼれ岩（蝙蝠石）（富東谷）

町指定文化財（天然記念物）。富東谷の目木川・重定川の合流点付近から、目木川沿いに約一・八km遡ったあたりの西側斜面にある、高さ約一〇・四m、幅約一四・四mの巨岩です。『作陽誌』（元禄四年（一六九二）刊）には、「蝙蝠石」と書かれています。地元では「こうぼれ岩」と呼ばれています。



こうぼれ岩



おこり石



だんに行こう石

このあたりの地名は「暮石」とい

います。現在ではこのように表記していますが、「くれ」というのは「塊」という意味があり、本来はこうぼれ岩や、付近の目木川などに点在する岩塊が、この地名の由来になったのではないかと想像できます。こうぼれ岩の名前も、今にもこぼれ落ちそうな岩であること、蝙蝠石の名前が混ざったのではないのでしょうか。こうぼれ岩の上には、推定樹齢五〇〇年とされるケヤキが根を張って

います。巨大な岩に巨木が根を拡げている様子は、間近に見ると圧倒的な存在感を示しています。岩の下には、御崎様の祠が祀られており、「こうぼれ様」と呼ばれ、幼児の夜泣きにご利益があると伝えられます。

②おこり石（富西谷）

布施神社の東西の本殿の間にある約一〇〇×七〇cm、高さ約四五cmの石で、古くから「おこり石」といわれ、触れることを禁じられているそうです。布施神社の現在の本殿は、嘉永

六年（一八五三）に再建されたものですが、それ以前はこの石の上に本殿があったようで、『作陽誌』には「本殿の下に巨石があり、石の下には神宝があるが、本殿を修造する時でも動かしてはならない」と書かれています。

現在は二棟の本殿の間に玉垣で囲い、注連縄を巡らせて祀っています。本殿の裏に回れば見ることができ

③だんに行こう石（大）

大生活改善センター北側の台地上にある、径約三五cm、高さ約一六cmの不整円形の石です。あまり大きくはなく、表面がすべすべしたきれいな石なので、庭石などにちょうど良

い大きさであるせいか、昔は家に持ち帰る人がいたようです。しかし、夜になると「だんに行こう、だんに行こう」という声がどこからともなく聞こえてくるので、不審に思っ確かめてみると、この石から声が聞こえてきており、持ち帰った人は気味が悪くなり、翌朝元の場所へ返しに行った、という言い伝えがあり、誰が言うともなくこの石は「だんに行こう石」と呼ばれるようになったとい

います。かつては水田の畦にあつたようですが、現在は圃場整備が行われ、地形も改変されているものの、だんに行こう石は今でも元の場所に大切に置かれています。

ここで紹介した以外にも、伝説と共に残されてきた奇岩・巨石はまだ存在します。世代が替わることにならず忘れられてしまいがちですが、自然石とはいえ、古くから昔話や信仰の対象として伝えられた地域の文化遺産として、いつまでも残されていくことを期待したいです。

参考資料：『作陽誌』『富村史』『富村の文化財』

『鏡野町伝説紀行』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733